

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(4) 道路の保全・整備	建設部長 高桐 美智代
目指す姿	市民が、保全・整備された道路を利用して、安全で快適に生活を送っています。	
関連する分野別計画		

■ SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	9 産業と技術革新の基盤をつくろう  17 パートナーシップで目標を達成しよう 	
SDGs推進の考察	市道川合9号線の拡幅事業への着手並びに、行き止まり道路の改良等により、住民の安全性、利便性の向上が図られた。また舗装や橋梁等の修繕を計画的に実施し、インフラ整備の推進を図った。今後は各インフラの整備計画に基づき、予防保全型の維持管理の推進を図る必要がある。	

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	交通安全施設の新設件数(累計)	件	—	—	17	25		60
2	事前防災・減災のために施行した道路施設の件数(累計)	件	—	—	5	9		14
3								
4								
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	国道などの幹線道路が整備されている	重要度 1.19 満足度 0.30	1.27 0.47		調査項目に対する重要度は高く、上向き傾向にあり道路整備に対する関心度が高い。また満足度も上昇していることから道路の整備効果が高いと推察される。
2	生活に身近な道路が整備されている	重要度 1.32 満足度 0.27	1.39 0.46		
3		重要度 満足度			
4		重要度 満足度			
		重要度 満足度			
		重要度 満足度			
		重要度 満足度			
		重要度 満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 幹線道路の整備	市道と賀白川線の早期の供用開始に向け、建物補償の算定や土地鑑定を進め、次年度以降から予定している用地買収を進められる準備ができた。
② 生活道路の充実	行き止まりの道路を改良したことにより、住民の安全と利便性に加え、地震災害時の避難・救命活動など、地域の道路利用者の安全性や利便性の向上が図られた。
③ 安全に配慮した道路施設の充実	通学路交通安全プログラム等により対策が必要となった防護柵や区画線等の安全施設等の整備を実施した。今後も安全に道路を利用できるよう修繕等を実施する。
④ 道路の適切な維持管理	老朽化し、傷んだ舗装の打ち替え及び橋梁の修繕を実施した。今後も安心安全な道路維持に向けて、計画的な舗装工事を行うとともに定期的な橋梁の点検や修繕を実施する。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

幹線道路の整備については、市道と賀白川線の用地買収に必要な土地鑑定、補償鑑定が完了し、地権者との用地交渉を開始した。また、新規事業の市道川合9号線については、公安協議及び地元説明を実施し、事業の進捗を図った。生活道路の充実については、市道新所北東西2号線の工事完了により、行き止まりが解消され、緊急車両の通行が可能となり安全性、利便性の向上が図れた。また、池の側ポケットパークの整備が完了し、沿道環境の向上が図れた。安全に配慮した道路施設の充実については、通学路交通安全プログラムにより危険箇所の合同点検を実施し、防護柵や区画線等の整備を行い、通学路の交通事故防止と交通の円滑化に努めた。道路の適切な維持管理については、舗装維持管理計画に基づき古厩関ヶ丘線や能褒野西線等の舗装修繕を実施するとともに路面性状調査を行い、新たな舗装修繕計画の策定を行った。また橋梁についても橋梁長寿命化修繕計画に基づき、定期点検や補修工事を実施するとともに修繕にかかる費用の縮減に努め、安全で安心なインフラの維持管理を推進した。道路美化ボランティアにおいては令和5年度の加入団体が18団体361人となり地域やボランティアと協働で道路の環境美化に努めることができた。	A 順調に進んだ
--	--------------------------------

今後の展開方針

幹線道路の整備については、市道と賀白川線を計画的に事業を推進するための予算確保の検討並びにコスト削減の検討を行うとともに、市道川合9号線においては、地域住民との合意形成を図るために説明会を行い、関係機関との調整を進めながら整備促進を図っていく。生活道路の充実については、狭い生活道路の実情を把握し、安全性や利便性の向上につながる道路拡幅等の改良工事に取り組む。安全に配慮した道路施設の充実については、各自治会からの要望や通学路交通安全プログラムにより教育委員会や公安委員会等と連携し、要対策箇所の対応並びに交通安全施設の充実を図っていく。道路の適切な維持管理については、さらなる予防保全型の維持管理に移行できるよう橋梁長寿命化計画の見直しを行い、効果的・効率的な維持管理を推進するとともに橋梁塗膜に含まれるPCBの処理について、令和8年度末までに完了するための予算確保並びに修繕計画の検討を進める。また、道路美化ボランティア加入団体の増加を図り、市民協働の取り組みを推進していく。
--